

10 周年記念誌
苗場山麓ジオパーク 10 年の軌跡
-2025-

苗場山麓ジオパーク振興協議会

もくじ

苗場山麓ジオパーク10年の軌跡

あいさつ	4	5
苗場山麓ジオパーク構想のはじまり	6	
苗場山麓ジオパークとは？	7	8
苗場山麓ジオパーク		
10周年のあゆみ年表 2014～2024	9	13
大地の活動 ジオサイト	14	17
雪国に適応した生態 エコサイト	18	
悠久のヒトの営み カルチャーサイト	19	
守り、伝え、学ぶ 「保全と教育」	20	
1 サイトの保全		
2 災害の伝承		
3 防災教育の取り組み		
活動紹介 調査研究・刊行物一覧	21	

信濃川と河岸段丘が一望できる川の展望台
アクセスのしやすさと開放感たっぷりの眺望に、
ジオパークで作った展望台は、年々人気が高まり、
この眺望を活かしたキャンプ場も新たにオープンした

ジオガイドの活躍	22	23
1 ガイドの役割		
2 ガイド研修の充実		
ジオ学習の成果	24	29
1 集合学習（域内5学年）		
2 ジオ学習（校外学習）		
3 苗場山麓ジオパーク研究コンクール		
雪に育まれた智恵	30	31
苗場山麓の湧水	32	33
苗場山の噴火と中津川が削りだした雄大な溪谷美を歩く		
～中津川左岸散策道～	34	35
ジオラフティング～大地の歴史を間近で体感～	36	
神の苗代へ挑む～天空のお花畑を目指して～	37	
苗場山麓の温泉	38	39
苗場山麓の野菜	40	41
大地のたからもの（認定商品）	42	43
これからの苗場山麓ジオパーク	44	45
苗場山麓ジオパークのロゴデザイン	46	
位置図・アクセス	46	47



苗場山麓ジオパーク

10周年を迎えて

会長 桑 原 悠

(新潟県津南町長)



津南町と栄村が手を携えて進めている苗場山麓ジオパークが認定され、10年が経ちました。あつという間の10年間でありました。私が、津南町議会議員であった際に始まり、当時、ジオパークガイドの認定も受けました。その後、平成30年から津南町長となり、苗場山麓ジオパーク振興協議会の会長も務めさせていただいています。

苗場山麓ジオパークは、平成23年から検討が始まり、協議会を設立し、本格的な活動が平成25年から開始され、平成26年12月22日に日本ジオパークに認定されました。

地域資源を保全しながら、教育と持続可能な活動に寄与するジオパークは、ユネスコの正式プログラムです。世界にも類を見ない多雪地域である本地域には、雪に適応した生態と我々の暮らしがあります。

山あいに位置する津南町と栄村は、とても小さな自治体です。けれども、ジオパーク活動を通して二つの町と村、官民学が一体となつての連携が多方面に渡り行われるようになりました。地域のみなさんや、ジオガイドさんによる活動にも大変感謝しております。特に、子どもたちへのジオパーク学習の展開は、大人も驚くほどの活動となっています。地域で生まれた子どもたちが苗場山麓ジオパークを通して、地域を知り、地域に学び、そして、それらを発信し、地域に何ができるかを考え始めています。

また、近年の環境変動、災害の激甚化などに対してもジオパークを通して、環境学習、防災学習が展開されています。

子どもたちが成長し、大人になった際、この苗場山麓ジオパークが大きく心の中に残っていることでしよう。そして、これからの未来を担ってくれる人材となってくれるはずです。

これからの10年、ますます少子高齢化に伴い、人口減少が避けて通れない中で、津南町と栄村がジオパークを通して、人づくり、地域づくりを行うことで、自然・歴史環境を保全しながら、この地で生まれたことに誇りを持ち、持続可能な地域として発展していくことを祈願して10周年の挨拶といたします。

最後に、苗場山麓ジオパークの立ち上げ、運営、様々な活動に関して、ご指導、ご支援、ご協力を賜った多くの皆様に感謝を申し上げます。

これからも苗場山麓ジオパークをどうぞよろしくお願い申し上げます。



苗場山麓ジオパーク

10周年を迎えて

副会長 宮川 幹雄

(長野県栄村長)



あつてこそ成り立っている。

中津川上流の「秋山郷」は冬季閉ざされてきたことから、江戸時代の暮らしを今も忍ぶことができる貴重な存在だ。莫大な雪は、それが溶けて水となり、40数万年とも言われる年月をかけて、他に類を見ない、大規模な河岸段丘をつくりだしている。苗場山麓ジオパークが認定から10周年を迎えた今、もう一度考えてみよう。今日まで暮らしてきた地域の有り様に目を凝らすと雪の存在は誠に大きい。当地域が都会と違うところは、正にこの積雪量の違い、冬の暮らしぶりだ。苗場山麓ジオパークの活動が少子化・高齢化、人口減少が進む要因を追求し、この現象に歯止めをかける役割を担っている事も再確認しなければならぬ。

苗場山麓ジオパークは「雪のふるさと」だ。雪に育まれた自然、歴史と文化、そして、その雪解け水による川の流れと火山がつくりだした大地、総面積442km²、その約84%は山林原野、自然の恵み豊かな「大地の公園」だ。県境を跨ぐふるさとの壮大なエリアを子ども達は、大いに駆け巡って、自分のふるさとへの自信と誇りを高めてほしい。あらためてそう思う。

10周年を機に、苗場山麓ジオパークの振興が必ず信越県境の未来にさらなる大きな希望となるように、みんなで力を合わせてこれからも精一杯取り組んでいきたいと思います。

長野県栄村と新潟県津南町の県境にあるJR飯山線森宮野原駅では、1945年（昭和20年）2月に積雪7m85cmを記録した。「森宮野原駅」は栄村の大字北信森と津南町大字上郷宮野原という集落名が合体してできた駅名だ。JR駅構内での、この積雪記録はこれからも破られることはないだろう。線路脇には、2011年（平成23年）3月12日の長野県北部地震で傾いてしまった7m85cmの積雪標柱が立っている。以前より、格段に積雪量は少なくなってきた気もするが、3mや4mの積雪があっても、地域の住民はさほど驚くことはない。正に雪と共に生きて来たのだから。その暮らしの歴史は、8千年前からとも言われているが、この辺のところが、私たちが「苗場山麓ジオパーク」認定に向けて動き始めた原点だろう。見渡す山々や自然環境は、雪の恩恵が



苗場山麓ジオパーク構想のはじまり



高度経済成長を経た日本、ヒトの活動により世界的にも環境変動が起こっている地球において、これからは、各地域の自然環境を守り、歴史文化を知ることが大切です。けれども、ヒトは地域資源を消費しなければ活動ができません。

そのような中で地域の理解を得ながら、これからのように地域の自然環境・歴史環境を守りながら地域振興を行っていくかを検討しました。

それが、平成23年から始まった「津南郷自然歴史環境活用検討委員会」です。2年間、文化庁の歴史的景観、エコパ



ク、ジオパークなどを検討した結果、委員長の新潟大学名誉教授島津光夫先生のご指導もあり、津南町と栄村の地形地質などの地域特性を活かし、ジオパークを目指すことになりました。

大学も無く、地形地質の専門家もいない本地域ではありましたが、ジオパーク認定に向けての模索が始まりました。先進地である糸魚川ジオパークやジオパーク秩父などへ視察を行い、下仁田ジオパークの専門員に本地域を見ていただきました。また、同時に島津先生のご指導の下、ジオサイトの選定も行い、同時にガイド養成も始まりました。



平成25年に「めざせ！苗場山麓ジオパーク振興協議会」を設立し、準備期間1年ほどで申請を行い、準備から短期間で認定されることになりました。認定にあたって評価されたことは、事務局が教育委員会にあること、これまで生涯学習の一環としての体験実習や講演会、刊行物の作成などの実践活動、及び小中学校での総合学習の展開などでした。

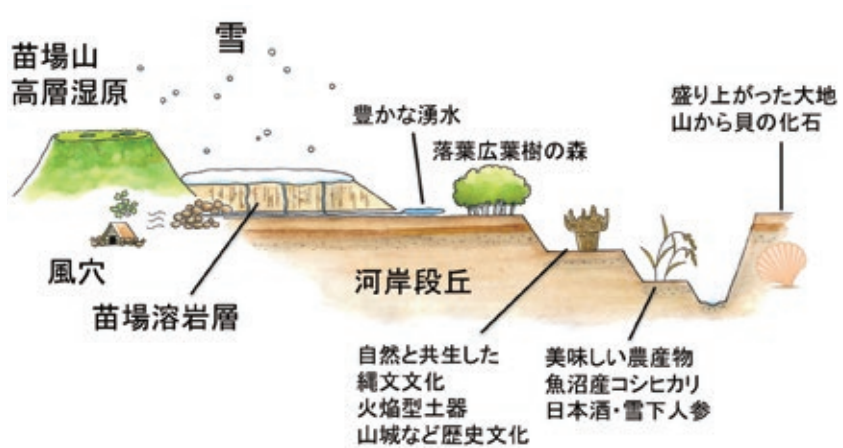
苗場山麓ジオパークとは？



ジオパークは、「地質遺産」を「保全」することが目的であるユネスコの正式プログラムです。ジオパークには、「ジオ（地形・地質）・エコ（生態）・カルチャー（歴史・文化）」の要素が含まれています。これらを「保全」するために「教育」と「持続可能な開発」があります。

苗場山麓ジオパークは、温暖な中緯度の北緯37度線上に位置するにもかかわらず、雪が多く降る地域です。

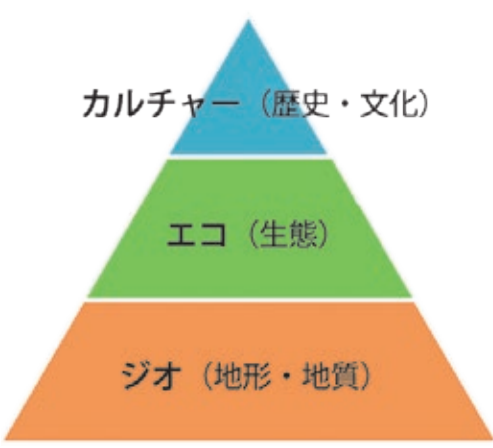
態、歴史文化が色濃く残る地域です。本地域は、フォッサマグナの中に位置し、およそ1800万年前のグリーンタフ帯の結東層が、現在地表面で見ることが出来る最も古い地層です。また、第四紀（およそ260万年前）以降の大地の活動が活発な地域です。毛無山（およそ



があります。日本一の大河信濃川と中津川の合流点の右岸に形成された河岸段丘は、10段にものぼります。段丘の一部には苗場溶岩が堆積し、その上に降った雨や今から8000年前から降り出した雪が大地にしみこみ、およそ40年かけて湧き出てきます。豊富な水によって落葉広葉樹の森が形成され、そこに動植物が育まれました。水が湧き平らな大地には、雪に適応し、自然と共生し、火焰型土器を生み出した縄文時代以降に、それらを

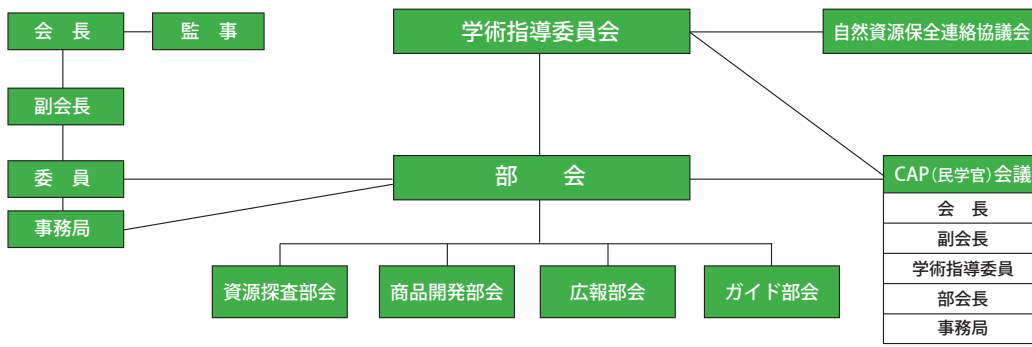


100万年前)、鳥甲山（およそ80万年前）、苗場山（およそ30万年前）の火山活動による溶岩が分布します。そして、およそ40万年かけて形成された河岸段丘



利用した人々の歴史文化があります。現在、コメやアスパラガス、とうもろこしなどの農作物が作られています。このように苗場山麓では、地形地質の上に多雪環境に適応した生態と歴史文化が特徴的なジオパークです。

苗場山麓ジオパーク振興協議会 組織図

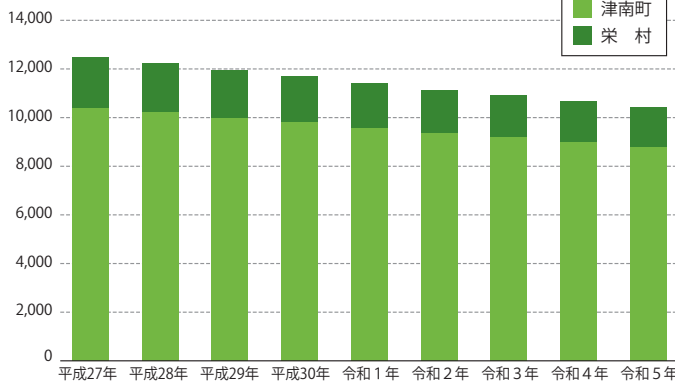


苗場山麓ジオパーク振興協議会は、学術指導委員会を中核として、CAP会議から指導を受け、資源探査部会、商品開発部会、広報部会、ガイド部会の4つの部会があります。

それぞれに、振興協議会の委員が分かれ、官民で苗場山麓ジオパークの活動について様々な意見交換を行っています。資源探査部会では、地域資源について検討や踏査を行い、新たな資源を見つけることを目的としています。商品開発部会は、ジオパーク認定商品の認定など、様々な商品開発について検討を行っています。広報部会は、苗場山麓ジオパークの広報方針を検討しており、ホームページやインスタグラムなどのSNSを活用した情報発信を行っています。また、苗場山麓ジオパークフォトコンテストを開催しています。その一環として、高校生向けのフォトバスツアーや写真勉強会の開催、フォトコンテスト入賞作品を掲載したジオパークカレンダーの作成なども行い、情報発信を行いながら学生へのジオパーク周知など地域とのつながりを深める活動を行っています。ガイド部会は、月1回集まり、情報共有やガイド養成・研修、雪まつりや米食味コンクールなどのイベントでもジオパークの情報発信を行っています。

また、4部会では、部会長が集まる部会長会議や、各部会が相互連携する取り組みも始まっています。

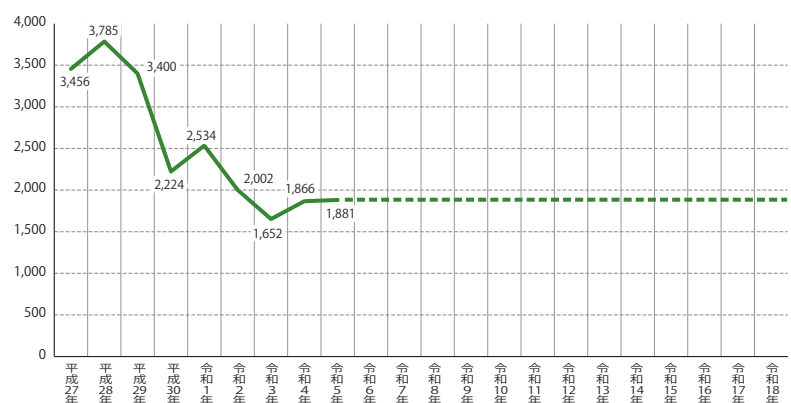
両町村の人口動態



苗場山麓ジオパークでは、ジオサイトを29か所、エコサイトが4か所、カルチャーサイト4か所を設定しています。また、8か所のビューポイントを整備し、18か所の文化財もジオ学習の一環として活用しています。

苗場山麓ジオパークを構成する自治体の人口と高齢化率は、津南町人口8,471人（2024年11月末）高齢化率44.5%、栄村人口1,563人（2024年12月1日現在）高齢化率55%以上です。少子高齢化が非常に進んでいる地域

苗場山麓ジオパーク振興協議会決算額(万円)



です。それでも、エネルギー自給率や食料自給率は、100%を越えており永続地帯とされています。苗場山麓ジオパークを運営する予算は津南町と栄村が按分し負担しています。その推移は表の通りです。発足当初は整備のため予算が3000万円前後で、現在は2000万円前後となっています。現在と同水準の質を維持できる予算の確保に努めています。

苗場山麓ジオパーク10周年のあゆみ 年表

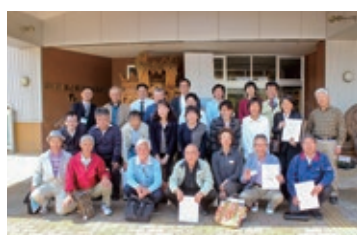
平成26年(2014)～平成24年(2012)

- 平成24年10月10日
日本ジオパークネットワーク加盟(準会員)
- 平成25年12月3日
めざせ! 苗場山麓ジオパーク振興協議会設立
- 平成26年4月30日
公開プレゼンテーション参加(横浜)
- 平成26年8月4日～5日
日本ジオパーク委員会現地審査
- 平成26年9月27日～29日
第5回日本ジオパーク全国大会参加(南アルプス)
- 平成26年9月27日
日本ジオパーク認定保留
- 平成26年10月19日
新潟圏域ジオパーク推進地域意見交換会参加(佐渡)
- 平成26年10月30日～31日
第5回日本ジオパークネットワーク全国研修会参加(三陸)
- 平成26年12月1日
苗場山麓ジオパークロゴマーク発表
- 平成26年12月22日
日本ジオパーク認定



平成27年(2015)

- 2月25日
苗場山麓ジオフォーラム開催
(主催: 津南小学校6年生)
- 3月23日～24日
中部ブロック(北信越)事務局会議開催(苗場山麓)
- 4月25日
第1回苗場山麓ジオパークガイド認定式(合格38名)
- 5月20日～6月28日
展示会「火焰型土器のクニと苗場山麓ジオパークの魅力」(新潟大学駅南キャンパスときめいと)
- 7月2日～3日
第6回日本ジオパークネットワーク全国研修会参加(白滝)
- 9月15日～16日
アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム参加(山陰海岸)
- 10月27日～29日
第6回日本ジオパーク全国大会参加(霧島)
- 11月16日
苗場山麓ジオパークガイドの会設立
- 11月17日～18日
第3回中部ブロック大会参加(白山手取川)
- 11月21日～22日
北陸の大地で考えるジオパークフォーラム参加(立山黒部)



平成28年(2016)

- 1月23日～25日
ユネスコジオパーク誕生記念全国研修会参加（白山手取川）
- 2月12日～13日
雪国ジオパークフォーラム参加（ゆざわ）
- 3月10日～11日
津南中学校2年生修学旅行（京都）でPR活動
- 3月19日
新潟圏域ジオパークガイド意見交換会参加（糸魚川）
- 3月27日
栗駒山麓ジオパーク認定記念フォーラム参加（栗駒山麓）
- 4月24日
第2回苗場山麓ジオパークガイド認定式（合格13名）
- 4月27日
栄村震災復興祈念館「絆」オープン
- 5月20日～23日
地球惑星科学連合大会参加（幕張）
- 6月4日～5日
第2回JGNガイドフォーラム参加（伊豆半島）
- 7月18日
「苗場山麓ジオパークの可能性」フォーラム開催（東京表参道）立教大学観光学部の協力
- 7月27日～28日
ジオパーク新潟国際フォーラム参加（朱鷺メッセ）
- 8月26日～27日
第4回中部ブロック大会参加（立山黒部）
- 9月25日
苗場山麓ジオサイクリング開催
- 10月10日～12日
第7回日本ジオパーク全国大会参加（伊豆半島）
- 11月27日
ジオパーク弁当販売（津南小学校5年生考案・実演販売）



平成29年(2017)

- 1月18日～19日
雪国ジオパークフォーラム2017参加（ゆざわ）
- 2月4日
ジオパークフェア参加（東京有楽町）
- 3月4日～5日
新潟圏域ジオパークガイド意見交換会開催（苗場山麓）
- 3月10日～12日
第9回日本ジオパークネットワーク全国研修会参加（Mine秋吉台）
- 4月16日
第3回苗場山麓ジオパークガイド認定式（合格7名）
- 5月20日
地球惑星科学連合大会参加（幕張）
- 5月22日
第10回日本ジオパークネットワーク全国研修会参加（幕張）
- 9月24日
苗場山麓ジオサイクリング開催
- 10月1日
津南タフマラソンin苗場山麓ジオパーク開催
- 10月25日～27日
第8回日本ジオパーク全国大会参加（男鹿半島・大潟）
- 11月19日～20日
第5回中部ブロック大会参加（南アルプス）



平成30年(2018)

- 2月1日～2日
第11回日本ジオパークネットワーク全国研修会
参加（箱根）
- 3月3日
東京国立博物館「魚沼・苗場山麓の自然と文化」
（振興協議会、教育委員会主催）
- 3月15日～16日
新潟圏域ジオパークガイド意見交換会参加（佐渡）
- 3月22日～23日
雪国ジオパークフォーラム2018
in 苗場山麓ジオパーク開催
- 4月22日
第4回苗場山麓ジオパークガイド認定式
（合格5名）
- 5月20日
地球惑星科学連合大会参加（幕張）
- 10月6日～8日
第9回日本ジオパーク全国大会参加（アポイ岳）
- 10月31日～11月2日
日本ジオパーク再認定現地審査実施
- 11月15日～16日
第12回日本ジオパークネットワーク
全国研修会参加（ふくい勝山恐竜溪谷）
- 12月1日～2日
第6回中部ブロック大会参加（伊豆半島）



平成31年・令和元年(2019)

- 1月18日
日本ジオパーク再認定
- 3月22日～28日
新潟圏域ジオパークガイド意見交換会参加
（糸魚川）
- 4月21日
第5回苗場山麓ジオパークガイド認定式
（合格7名）
- 5月26日
地球惑星科学連合大会参加（幕張）
- 5月28日～29日
第13回日本ジオパークネットワーク全国研修会
参加（銚子）
- 7月26日～28日
FUJI ROCK FESTIVAL'19 出店
- 9月11日～12日
新潟圏域ジオパークガイド意見交換会開催
（苗場山麓）
- 9月29日
苗場山麓ジオパーク津南ウルトラマラソン開催
- 9月29日
苗場山麓ジオサイクリング開催
- 10月31日～11月5日
第10回日本ジオパーク全国大会参加（おおいた）
- 11月23日～24日
第7回中部ブロック大会参加（佐渡）



令和 3 年(2021)

- 3月20日
新潟圏域ジオパークガイド意見交換会
オンライン参加(佐渡)
- 3月20日
津南小学校3年生「苗場山麓ジオカード」
全16種類製作・配布(津南町・栄村・十日町市)
- 9月26日
苗場山麓ジオサイクリング開催
- 10月3日
苗場山麓ジオパーク津南ウルトラマラソン開催
- 10月3日～5日
第11回日本ジオパーク全国大会オンライン参加(島根半島・宍道湖中海)



令和 2 年(2020)

- 9月27日
苗場山麓ジオサイクリング開催
- 10月4日
苗場山麓ジオパーク津南ウルトラマラソン開催
- 10月7日～9日
第15回日本ジオパークネットワーク全国研修会
参加(三笠)
- 11月11日
苗場山麓ジオパーク特産商品「大地のたからもの」
認定式
- 11月中旬～翌年2月末
津南小学校3年生
「お気に入りのジオサイトランキング新聞」
発行・掲示(津南町・栄村・十日町市)
- 11月21日
第8回中部ブロック大会オンライン参加(糸魚川)



令和 4 年(2022)

- 1月30日
第9回中部ブロック大会オンライン参加
(恐竜溪谷ふくい勝山)
- 3月19日
新潟圏域ジオパークガイド意見交換会オンライン
参加(糸魚川)
- 3月26日～翌年3月末
津南小学校4年生「苗場山麓ジオカード第2弾」
認定商品コラボ全20種類製作・配布
(津南町・栄村・十日町市)
- 4月17日
第7回苗場山麓ジオパークガイド認定式(合格7名)
- 5月22日
地球惑星科学連合大会参加(幕張)
- 9月25日
苗場山麓ジオサイクリング開催
- 9月3日～10月23日
令和4年度秋季企画展
「苗場山麓1,800万年の軌跡」(振興協議会共催)
- 10月1日～2日
苗場山麓ジオパーク津南ウルトラマラソン開催



令和 3 年(2021)

- 11月7日
ぼうさいこくたい2021オンライン参加
- 11月中旬～翌年3月末
津南小学校4年生「苗場山麓ジオタイムス」
発行・掲示(津南町・栄村・十日町市・糸魚川GP・
佐渡GP・南アルプスGP)

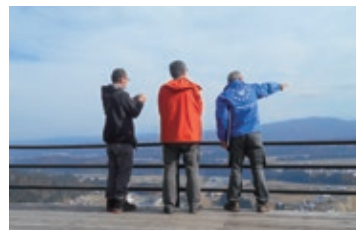
令和 5 年(2023)

- 1月25日
第2回 苗場山麓ジオパーク特産商品認定審査会実施
- 2月21日
第2回 苗場山麓ジオパーク特産商品認定式
- 4月23日
第8回 苗場山麓ジオパークガイド認定式(合格6名)
- 5月21日
地球惑星科学連合大会参加(幕張)
- 7月7日～9日
佐渡ジオパーク日本認定10周年記念事業参加(佐渡)
- 8月5日～6日
ツール・ド・苗場山2023～栄村100kmサイクリング～開催



令和 4 年(2022)

- 10月1日～2日
新潟圏域ジオパークガイド意見交換会開催(苗場山麓)
- 10月21日～23日
第12回日本ジオパーク全国大会参加(白山手取川)
- 11月8日～10日
日本ジオパーク再認定現地審査実施
- 11月19日～翌年1月22日
展示会「苗場山麓1,800万年の軌跡」
(新潟大学旭町展示館)
- 11月21日～23日
第17回日本ジオパークネットワーク全国研修会
参加(栗駒山麓)
- 11月29日
新潟圏域ジオパーク子どもの交流事業
オンライン参加(佐渡)
- 12月16日
日本ジオパーク再認定



令和 6 年(2024)

- 2月7日～9日
第18回日本ジオパークネットワーク全国研修会参加(糸魚川)
- 4月23日
第9回 苗場山麓ジオパークガイド認定式
(合格16名)うち2名が小学生
- 5月26日
地球惑星科学連合大会参加(幕張)
- 8月30日～9月1日
第14回日本ジオパーク全国大会参加(下北)
- 9月29日
苗場山麓ジオサイクリング開催
- 9月29日
苗場山麓ジオパーク津南ウルトラマラソン開催
- 10月26日～27日
苗場山麓ジオパーク日本認定10周年記念事業講演会
(ワークショップ)トレッキング開催
- 11月30日
LNTワークショップ子ども編開催(苗場山麓)



令和 5 年(2023)

- 9月20日～21日
第11回中部ブロック大会開催(苗場山麓)
- 9月24日
苗場山麓ジオサイクリング開催
- 10月1日
苗場山麓ジオパーク津南ウルトラマラソン開催
- 10月27日～29日
第13回日本ジオパーク全国大会in関東参加
(銚子・秩父)
- 11月28日
新潟圏域ジオパーク子どもの交流事業オンライン参加(糸魚川)



ジオサイト (29ヶ所)

ジオサイトは、地球科学に裏付けられた地形・地質的な価値をもつ場所のことで、地域の見どころであり郷土の宝です。



切明温泉の源泉湧出点

川原に温泉が湧出します。この温泉は、カルシウム・ナトリウム－塩化物・硫酸塩泉でおよそ56℃です。善光寺地震（1847年）で温泉宿が水没しましたが、佐久間象山が工事を指導し、土砂を切り開いて排水したので、地名が湯本から切明になったと言われています。



鳥甲山の筋状地形（鳥甲山の展望台（天池展望台）より）

展望台から鳥甲山の山体を一望できます。山体には、主に雪解けにより急斜面に何本もの筋状の地形が現れます。上野原地域には、鳥甲山の火山活動による溶結凝灰岩の地層を観ることができます。

石落とし

中津川の中流、左岸を覆い尽くす見事な柱状節理の発達した岩屏風があります。川の侵食の強大さを目の当たりにできるスポットです。



ざこ おおぜん 雑魚川の大滝

中津川の支流・雑魚川の上流にある滝で「おおぜん」と呼ばれています。

古い結東層の堅い変質した安山岩の凝灰角礫岩の岩場から落ちる、落差約 25 m の 2 段になった美しい滝です。雑魚川沿いに残る原生林の中の林道から遊歩道が整備されています。

苗場山の高層湿原

苗場山の山頂域は、苗場火山の第 4 期溶岩が流れた面で構成されています。東京ドーム 1500 個分の面積をもち、8000 年前から日本海へ対馬暖流が流れ込むことにより多雪環境になり植物が繁茂し、それが分解しないまま堆積し泥炭になり、約 3000 個もの池塘ちとうが形成されました。





苗場・鳥甲山の柱状節理

約 80 万年前に形成した鳥甲火山の溶岩の上に、約 30 万年前に形成した苗場火山の溶岩が流れ至りました。溶岩部分には植物が生育しにくく、それぞれの溶岩上層の土には植物が育まれます。これにより、秋にはそれらの植物が色づいて美しい3段の紅葉となり、私たちの目を楽しませてくれます。



見倉橋

観光客に人気のスポットになっています。映画のロケ地としても使われたつり橋です。50 年ほど前まで見倉集落の児童の通学路として使用されました。両岸は結東層の岩石(変質安山岩・砂岩頁岩互層)でできています。

龍ヶ窪

全国名水百選(昭和)「輝く名水」に選定されている龍ヶ窪の池です。この水は苗場溶岩層にしみ込んだ雨や雪解け水が地下水となって湧き出ており、周辺的生活用水・農業用水として活用されています。かつては、集落の飲料水としても使われました。



布岩(山)

長い布を幾重にも垂らしたように見えることから、「布岩」と呼ばれます。布に見えるのは直立する柱状節理で、その柱の幅1.5m以上、高さ100mを優に超えます。この布岩は安山岩でできていて、鳥甲火山を代表する火山活動があったことを示す景観として位置付けることができます。

小滝・四ツ廻り

小滝集落近くの千曲川には、大きく蛇行した場所があり曲がりの数が4つあることから、「四ツ廻り」と呼ばれています。かつて、関田山脈の貝立山が大崩壊し、千曲川に流れ込み、流路をふさぎ、そのために流路が変わったとも考えられています。河床や古道周辺の地層は、主に毛無山からの角礫や火山灰が混じった火山碎屑岩で占められています。



エコサイト（4ヶ所）

エコサイトは、生態的な価値をもつ場所です。標高1020mの地に、雪解けと共に咲くミズバショウが群生する野々海湿原、見倉のトチノキ原生林や見倉の風穴、山伏山風穴の4箇所のサイトがあります。いずれも雪国の風土で生まれた環境の中で培われた豊かな生態系をつくっています。



野々海湿原の生態

大地が隆起してできあがった関田山地の山頂の周囲には、湿原とブナ林が広がっていて、冬は7m以上の雪に閉ざされ、7月初めまで残雪があります。雪どけとともにミズバショウの群落が花を咲かせます。池沿いの道路では、トンボ類・チョウ類などの昆虫を多数観察することができます。



見倉の風穴と周辺の植生

苗場溶岩のがれ場が分布する見倉集落の南方、標高710m付近にある風穴です。冷気は1年を通じて10℃前後で、夏季でも冷風が吹き出しています。新潟県内で唯一のエゾスグリ（ユキノシタ科）やシウリザクラ（バラ科）などの寒冷地適応の植物が生育しています。氷河期に生育していた植物です。

カルチャーサイト（4ヶ所）

カルチャーサイトは歴史・文化的な価値をもつ場所です。

河岸段丘の先端部を利用し、本郭、二の郭の区画のほか大規模な空堀や畝状堅堀が現存する中世の山城で、新潟県指定史跡の今井城跡。苗場山と鳥甲山の崩れた柱状節理の落石を利用して築かれた結束の石垣田は、全国農村景観百選にも選ばれています。また、周辺には風穴も点在しています。



見玉不動尊の境内地

山号は「金玉山正宝院」、本山は比叡山延暦寺、天台宗のお寺です。平家の守護神、不動明王が祀られているため「見玉不動尊」と言われています。鈴木牧之の秋山紀行にも描かれ、昔から眼病にご利益があるとされ、境内に苗場溶岩の崩落した百石が立ち並び、水も流れ遠方からも参拝者が訪れます。



苗場山頂の伊米神社

延喜式神社で、農耕の神様が祀られています。参拝登山されてきた歴史があります。

池塘とその周辺には、ワタスゲをはじめ、イネが植わっているように見えることから苗場山と呼ばれるようになったといわれます。

守り、伝え、学ぶ ー保全と教育ー

1 サイトの保全

いつでもどこでも見られるサイト

サイトには、地形地質などのジオサイト、生態関連のエコサイト、歴史文化のカルチャーサイトがあります。どのサイトも、その価値を地域住民が共有し、整備し、保全する心がないと持続しません。特に、ジオ・エコサイトについては、人の手が入らないとサイトの価値そのものを見ることができなくなる怖れがあります。

近年、豪雨や地震などの災害や、雪崩や植生の繁茂により、サイトへの影響が増加しています。復旧については、十分な配慮が必要です。



サイト整備

草刈りの様子

生物環境の保全の大切さの声掛け

植物・動物に関する調査をグループで行っています。地域住民へのさらなる啓発と普及が必要です。

貴重な環境の啓発と保存

栄村でしか確認できない生物もいるため、栄村では、一部の生物を保護するべく、条例を制定しました。また2021年に「苗場山麓ジオパーク憲章」を制定し、内外に宣言しています。

苗場山麓ジオパーク 自然資源・文化資源保護憲章

自然は、人間を含むすべての生物の生存の基盤となるものです。自然を尊び、自然に親しみ、美しい景観を保全していくことは、この苗場山麓ジオパーク地域（和南町・栄村）に住むわれら住民の責務です。私たちを取り巻く自然は、地形・地質（ジオ）と生態（エコ）からなり、私たち人間はそれらと共存し、活用することで歴史・文化（カルチャー）をつくり出してきました。この苗場山麓ジオパーク地域で生きる一人の人間として、ジオ・エコ・カルチャーの価値を共有・共創し、その調和を損なうことなく保全し、節度ある利用をし、持続可能な社会の実現に向けて最善の努力を払わなければなりません。よって、私たちはここに自然資源・文化資源保護憲章を定めます。

- 自然の中で遊び、自然と共に育とう。
- 人を知り、動植物を知り、山を知ろう。
- 川や池を美しくきれいに保ち、水を大切にしよう。
- 里山をきれいに保ち、動植物と共存しよう。



調査・研究



菅沼地域の自然と生態環境の調査

2 災害の伝承

「天災は、忘れたころにやってくる。」の名言があります。しかし、近年は2011年の長野県北部地震をはじめ、地震や地球温暖化による夏季における異常な高温、台風、豪雨などが世界中で起こっています。

災害は、人災の側面もありますが、記録や伝承をしないと、同じことを繰り返す恐れがあります。苗場山麓では、2011年の3月12日の地震に際して、「復興」を柱にジオパークが発足しました。震災復興に合わせて、2014年に震災復興「祈念館「絆」」が開館しました。



3 防災教育の取り組み

小中学校では、防災教育が必須の指導事項となっています。苗場山麓は、地形地質学的に土砂崩れや地震などの災害が多発する場所です。小学校や中学校における防災教育にジオパークとして多くの出前授業の要請があり、自治体や消防、県の振興局などの協力を受け、防災学習を実施しています。



地震の際の行動訓練（小学校）



中条川上流の崩壊地形から災害を考える



ハザードマップを使った学習（中学校）

< 苗場山麓ジオパーク調査研究・刊行物一覧 >

作成年	内 容
2014	苗場山麓ジオパークハンドブック
2015	苗場山麓ジオパークパンフレット
	苗場山麓ジオパークサイトマップ
2018	苗場山麓植物民俗事典
	苗場山麓ジオパーク再認定審査報告書2018
2019	苗場山麓ジオパーク研究集録 1 号
	苗場山麓豊かな自然と暮らし
	ガイドブック実践編(石落し・小滝四ツ廻り)
2020	ガイドブック実践編(中条川崩壊地形・森宮野原駅周辺・笹葉峰大崩壊・見玉不動尊・古型マンモス)
	苗場山麓ジオパーク研究集録 2 号
2021	ガイドブック実践編(結東の石垣田～逆巻の川原と猿飛橋・切明温泉の源泉湧出点周辺)
	苗場山麓ジオパーク研究集録 3 号
2022	ガイドブック実践編(見倉橋・見倉集落・風穴・上野原～天池)
	苗場山麓ジオパーク研究集録 4 号
	カルチャー研究会Ⅰ晩水期・細石刃文化の資源利用-苗場山麓ジオパークから眺望するジオパークの繋がり-
	苗場山麓ジオパーク再認定審査報告書2022
2023	ガイドブック実践編(前倉橋～蛇淵の滝・小赤沢・屋敷・布岩)
	苗場山麓ジオパーク研究集録 5 号
2024	ガイドブック実践編(沖ノ原・龍ヶ窪・鳥甲牧場・五宝木堆積物)
	苗場山麓ジオパーク研究集録 6 号
	カルチャー研究会Ⅱ縄文時代中期の資源利用(1)-火焰型土器が繋ぐジオパーク-

ジオガイドの活躍



1 ガイドの役割

地質や地形、歴史や文化など眺めただけでは伝わりきらない情報を、お客さんとの間に立つて、苗場山麓の魅力を伝えるための語り部としてジオガイドがいます。

また、参加者が自ら魅力を発見して、保全の大切さに気付いてもらえるように導く、インタプリターとしての役割もあります。



インタプリターを目指して

2 ガイド研修の充実

新潟圏域（糸魚川・佐渡・苗場山麓、各ジオパーク）及び近隣のジオパークの主にガイドの意見交換の中で、今日的な世界・日本のジオパークの課題（SDGs、ユニバーサルデザイン、TORE理論等）の理解と実践活動を行っています。



中部ブロック大会、展望地紹介

①新潟圏域ガイド意見交換会（糸魚川・佐渡・苗場山麓）…持ち回りで実施

- ②中部ブロック、全国大会、全国研修参加
- ③ジオの要素を取り入れたジオラフティングの実践
- ④新潟圏域ジオパークガイド意見交換会、中部ブロック大会にて実践とその効果の紹介



好評のジオラフティング

近年では、環境を傷つけない、「Leave No Trace」LNTワークショップを試行しています。次年度からは、他のジオパークやブロック大会で紹介していきます。100人を超えるガイド組織ですが、実践的なガイドをすることが出来る若手の早急な育成が課題となっています。

ガイド研修では、充実した研修となるよう、魅力ある講座の設定と、ガイドすることに自信を持たせる実践を推進していきます。



新たに始まったLNTワークショップ 2024 (R6)



ガイドの役員会

・諸会議 ・大会のリード ・ガイド組織の有効な活用

・スキルアップ研修

ガイドする際に最低限必要な救急処置の研修を毎年実践しています。「いざという時」にすぐにできる心構えを持つには、慣れておくことが重要です。

ここ数年は、救命救急の資格をもつガイドが指導者になり、日頃のガイドに携行している道具や救急法のノウハウについても学んでいます。



もしもに備え・危機管理…必須の研修

・域外のジオパーク視察、意見交換

ガイドの力量を高めるには、近隣のジオパークとの交流は欠かせません。新潟圏域の糸魚川ジオパーク・佐渡ジオパークとの年一回の意見交換会を基盤にして、他のジ

オパークの視察を試みています。何

と言っても、対面でのガイドの意見交換から学ぶことは多く、今後も視察を予定しており、さらに情報交換と研修を深めていきます。



下仁田 GP 2016 (H28)



浅間山北麓 GP 2017 (H29)

視察研修は、コロナ禍に中断はあつ

たものの、磐梯山、下仁田、浅間山北麓、立山黒部、秩父の各ジオパークに赴き、交流を深めました。



磐梯山 GP 2018 (H30)



GP 秩父 2024 (R6)



ガイドの会 会長
小島隆夫

ジオパークが認定されてから10年を経過した現在、記念の冊子ができるという事で、喜びに堪えません。この間、怒涛の10年でもありました。

たまたま認定番号が1番という事で、ガイドの代表要請を受けました。初めてのことであり、いちからのスタートでしたが、大勢の皆様方からのご指導ご協力を賜り、苗場山麓ジオパーク推進室及び観光協会と連携しながら、ジオパークの進化に努めてきました。

特に、自らのガイド力量アップと観光ガイドの育成は、最も大切と認識しています。観光業者からのガイド依頼が徐々に多くなる中、実践されるガイドの力量アップを推進室の指導の下で進めてきましたが、まだ足りない状況です。

ジオパークが、津南町・栄村の今後の在り方をリードする事業であると確信しています。さらに、力量を高めていくと共に観光ガイドできる人材を育て、「全国でも雪深い山間地」の魅力を発信していきたいと思っています。「人生、死ぬまで現役」で楽しく頑張ります。

ジオ学習の成果



1 集合学習（域内5学年）

(1) 座学での学習

苗場山麓内にある小学校4校との集合学習を実践しています。
4年間、テーマを環境学習とし講師に元WWFジャパン自然保護スタッフの小森繁樹先生をお招きして、講演会を開催しました。



小森氏の講演

内容は、人類がエネルギーを多く消費して、現在の暮らしがあるところとや、地球が過去に貯めていたエネルギーを使っていたこと、世界には様々

(2) 石坂橋下の川原での学習

な生態系があること、食物連鎖、水の浄化、気候の安定など、地球の働きについて小森先生からお話をいただき、SDGsについて子どもたちと一緒に考えました。

2023年度から域内の5学年の集合学習では、フィールド学習をテーマに実施しました。場所は中津川の石坂橋の下の川原において、グループごとに分かれて、川原の石について説明を受けた後、観察や石積み競争を行いました。石積み競争は、大きな石を土台にして80cm以上の高さに積み上げたグループもあり驚きました。その後は川



川の中の生き物探し

の中に入り生き物探しや、川原に落ちているごみを拾うクリーン活動も行いました。生き物探しでは、カジカやカワゲラの幼虫を見つけ水生生物について学びました。

また、川原にごみはほとんど落ちておらず、わずかなごみを回収するだけでしたが、環境保全の大切さを学ぶ機会となりました。終始天候にも恵まれ、体を動かしながら児童たちが交流を深め、自然環境について学んだ1日でした。



川原での石積み遊び

・水難事故の防止

2024年度は、石坂橋下の川原で、水難事故防止をテーマにしました。衣服を着ていると水に濡れた場合、思いのほか、動きが制限されることを体験することができました。

また、川の流れについても水に浸かると意外に流れの速いことに気づいたようです。



着衣泳の体験

2 ジオ学習（校外学習）

苗場山麓には、小学校が4校、中学校は2校あり、そのほか中等教育学校が1校あります。ジオパーク学習については、各校で特徴があります。主に3・4学年でジオパークの学習を取り入れている学校、小規模校で複式学級があり、隔年で実施している学校、中学校1学年時の総合的な学習の時間として設定している学校もあります。年度によっては、5・6学年でジオパーク学習を導入することもあります。いずれにしても、教育委員会の指導の重点に、地域を知り、学ぶことが課題として示されています。

以下、各学校における校外学習の例をいくつか紹介していきます。



わくわくどきどき 見倉橋渡り



鳥甲山の山の形から、
なぜこんな崖ができたかを想像



巨大な石の柱が立ち並ぶ石落しを
眺め、その大きさとでき方を想像



自然がつくりだした湧水を体感（龍ヶ窪）



特有な段々の地形に感動（川の展望台）

(1) 校外学習のようす
① ジオサイトを知らう！
子どもたちにとっては、知識でなく、実際にジオサイトを観て、その価値の一端を感じてもらおうのがねらいです。果たして子どもたちの反応は？

② エコサイトを知らう！



新潟県内最大のトチノキ、なぜ残ったか（見倉のトチノキ原生林）



風穴特有の植物（山伏山の風穴）



よく積んだね、人の力はずい



仁王様、どっちが阿形か吽形像？

③カルチャーサイトを知ろう！



まちなかオープンスペースでの公開発表会



新潟圏域の3ジオパークのオンライン発表

(2) 校外学習の発表会
校外学習のまとめを行うとともに、月の学習発表会や学期の節目で発表会を実施しています。



総合的な学習の時間



ジオパーク学習

TOPIC 覚えていますか？ジオパーク

苗場山麓ジオパークが日本認定を迎えて10年経つことから、ジオパーク活動が始まったころの子どもたちが二十歳を迎える節目に、追跡調査を行いました。結果は、ほぼすべての人が小学生や中学生のときにジオパーク学習をしたことを覚えていたことや、自分たちのふるさとがどんな特徴をもった地域なのかをしっかりと人に説明できる子に育っていることが分かりました。地道に教育活動を続けてきた成果がしっかりと表れています。今後も継続して調査していく必要があります。



二十歳のつどいや成人式でアンケートを行いました

3 苗場山麓ジオパーク 研究コンクール

2019年度から開始し、2024年度で6回目となります。

それまでは休みの自由研究に取り組んだ作品や研究物は、十日町理科教育センター主催の展示会・発表会で出品されていました。

そうした中、小学校現場から理科や発明工夫部門に該当しないものについて発表の場はないかという要望を受けて出発したコンクールです。

児童生徒の減少、自由研究の指導方針の変化もあり、学校統合が進むと、実施方法や内容等の検討が課題となっています。



応募のあったものや、審査されたものは一定期間、なじもんや町・村内で展示されます。

< 出品作品例……立体作品、掲示作品 >



訪れたジオサイトを手書きで新聞風にまとめたもの



竪穴式住居を自然の素材を使い立体的に作成



ジオサイトの移り変わりをまとめたもの



小松原湿原を登ったときの記録をイラストなどや写真を使いレポート



史跡の模型を立体的に作成



河岸段丘を発泡スチロールを使い立体的に作成

< 発表数・関わる児童生徒数 >

年	2019(令元)	2020(令2)	2021(令3)	2022(令4)	2023(令5)	2024(令6)
作品数	47	56	56	44	19	27
人数	119	140	125	127	96	113

学校における防災学習は、子どもたちが災害について「知る」「考える」「自分のこととして行動する」が課題となっています。

つまり、自然災害等の現状や原因、被害を最小限にとどめることについて理解を深め、いつ起こるか分からない災害に対して、適切に意思決定し、行動選択（自助）できることが大切です。



マイタイムラインの作成

災害が起きたことを想定し、自分がどう行動するかを考え、他の意見を聞き、最善の動きを考えます。



中条川の大崩壊から災害を考える

2011年3月12日に発生した長野県北部地震の記憶や記録を風化させないよう、善光寺地震とからめて災害の事実や教訓を伝承しています。



防災学習の発表

苗場山麓ジオパークの学習を基盤に、地域をどのようにとらえ、解決するかを探索的に実践しています。

TOPIC

行政機関(町・村)における防災訓練の実施

近年、地球温暖化に係る豪雨災害（河川の氾濫や土砂崩れ等）の増加、2011年の長野県北部地震をはじめ、2024年の能登半島地震といった地震も頻発しています。行政機関においても、地域ぐるみの防災訓練は、必須の課題です。



津南町防災訓練の様子



栄村防災訓練の様子

苗場山麓ジオパークでは、

教育委員会が事務局であることから特にジオ学習を中心とした教育活動が活発です。地域の小中学校では、実際に現地に訪れるジオ学習が年間を通して実施され、その成果が各学校や、地域内の施設にて発表され、新潟圏域のジオパークとの学習交流会も実施しています。また、ジオパーク研究コンクールを開催、夏季期間の学習の発表の場も設けています。

子どもたちの活動には、ジオパーク新聞、ジオカード、動画作成などがあり、その成果がエリア内などで掲示されています。

このほか「Takaramono」という歌も作られ歌い続けられています。

Youtubeに動画が公開されています。ぜひご覧ください。

津南町 ver



栄村 ver



た か ら も の Takaramono ～苗場山麓ジオパーク PR ソング～（カッコ書きは栄村バージョン）

作詞：H26 津南小 6 年生ジオ PR ソングプロジェクト+ H29 栄小 4 年生 作曲：渡邊 和幸先生
(2015.2.25 ジオパークフォーラムにて発表)

☆たった一つのタカラモノ 僕らが津南(栄)の未来を創る…

初めて知ったジオパーク 心の中いつもドキドキ
何だろう？って思うことが ワクワク感を増してく
この地にしかない自然を たくさんの奇跡を 多くの人に伝えたいんだ
思うようにいなくても それでも伝えたい！ 津南(栄)に生きてく一人として

★たった一つのタカラモノ 津南(栄)はただのいなかじゃないのさ
あふれる自然の中 生まれた奇跡の大地 苗場山麓ジオパーク！ 僕らが津南(栄)の未来を創る！

津南を見下ろす 苗場山 思いきり深呼吸したい(秋山見下ろす苗場山 平らな頂き 白く輝く)
長い坂を上ると見える 河岸段丘 日本一(大昔にマグマ流れる 火砕流跡 見上げてる)
緑にきらめいて光る 龍ヶ窪の水面 竜神伝わるミステリー
(真っ赤なもみじが流れる 雑魚川の大滝 お湯がわく川原 切明)
ゆるる見倉橋の上 そよぐ風 僕らの心を動かしてく…
(そびえる切明橋から 夫婦滝 2つの流れが一つになる…)

★たった一つのタカラモノ 津南(栄)はただのいなかじゃないのさ
あふれる自然の中 生まれた奇跡の大地 苗場山麓ジオパーク！ 僕らが津南(栄)の未来をつなぐ！

深雪に眠る縄文の跡に浮かぶ 古代の津南 (野々海の池の水芭蕉たちに うかぶ昭和の栄)
そこに生きた人のストーリー いつか知れたらいいな… (そこに生きた人のストーリー 今も栄をつくる…)

★たった一つのタカラモノ 津南(栄)はただのいなかじゃないのさ
あふれる自然の中 生まれた奇跡の大地 苗場山麓ジオパーク！
僕らが津南(栄)の未来をつなぐ… 僕らが津南(栄)の未来を創る！
ラララ…



雪に育まれた智恵

およそ8000年前、日本海に暖流が流れ込んだことによって、苗場山麓ジオパークに年間3mもの積雪となる多雪環境が生まれました。世界的にも列島にも、多雪環境の地域で縄文時代からの長い歴史を持ち、雪に適応した文化が育まれた大変稀有な地域です。そのため、家のつくりや暮らしは、雪に対応した形となり、現代では、落下式の急こう配な屋根、1階が車庫となり2階から居住スペースとなる高床式の住居、スノーダンプ、スノーブラシなどの除雪用具、消雪パイプや道路の除雪体制、自動車は四輪駆動でスタッドレスタイヤ、人々は、防水性のある長靴を履きます。

春になれば、降り積もった雪は消え、水となり大地に浸み込み、潤し、湧水となります。湧水からは、落葉広葉樹の森が生まれ、生き物を育み、その恩恵をヒトも享受します。そのような中、風習を含めて、雪国文化についていくつか紹介します。

大根つぐら

「つぐら」とは、もともと赤ちゃんを寝かしておく藁で作ったものです。大根を入れるものを「大根つぐら」と呼び、家の外でひと冬、大根を保存できます。天然の冷蔵庫として、凍ることなく保存することができま

す。雪国ならではの智恵です。この智恵を利用したのが「雪室」です。雪の中で保存することは、野菜や果物にとって保存がきき、美味しくもなります。現在では、低温で湿度を保った雪室をつくり、1年中、様々な食べ物を保存しています。



雪墓ゆきばか

雪国と表現されるように12月～3月にかけて多くの雪が降り積もり、3月も多くの雪が残ります。けれども、本地域の半径40kmの外には雪がない世界が広がっています。お彼岸の際、お墓は雪に埋まっています。そのため、お墓の上に雪で雪墓と呼ばれる祭壇をつくり、お花や線香をお供え、お茶をかけたりします。白い世界の中に、お墓参りに供えられた花の鮮やかに色が映し出されます。



山菜文化

雪が消え、春になると山菜が一気に伸びます。山菜には、ゼンマイ、ワラビ、ふきのとう、コゴミ、木の芽、ウド、フキ、シオデ、タラの芽など多種多様です。短期間で成長することから苦みが少なく柔らかいことが雪国の山菜の特徴です。また、ゼンマイは、乾燥させることでお盆や正月のごちそうにも使われ、保存食の一面も持ちます。

雪さらし

縄文時代からあったとされるアンギン編みというものがあります。このアンギン編みは、カラムシなどの植物の繊維を撚って糸をつくり、縦糸と横糸を編んで作った布のことです。編み上げたものの最終工程に「雪さらし」があります。これは、3月の天気の良い日に雪の上にアンギン編みを置くと、オゾンの効果により色が白くなり、柔らかいアンギン編みができあがります。雪国ならではの智恵と作業です。

苗場山麓ジオパークには、多くの雪が降り、雪に適応した植生や雪にまつわる文化があります。湿った重い雪であることから固く締まり、カマクラや雪像なども作ることが出来ます。地球規模の環境変動の中、こうした雪国の先人たちが、世界でも類を見ない雪の中で暮らし育んだ雪国文化をこれからも継承していく必要があります。



ユキツバキ

雪に適応した植物に、「ユキツバキ」があります。ユキツバキは、千曲・信濃川沿いには、分布していますが、10 km南に移動すると分布していません。積雪量に理由があると考えられます。

栄村には、ユキツバキにまつわる逸話があります。北野天満宮の神様が、ユキツバキでケガをしたことから、自分の周辺にはユキツバキを生やさないようにしたといえます。そのため、今でも北野天満宮の周辺および、それよりも南側ではユキツバキが繁茂していません。当時の人もユキツバキの生態を把握していたことがわかります。



ネマガリ

苗場山麓ジオパークの雪は湿った雪です。そのため、大変重い雪であり、この重さによって木々は埋まってしまいます。樹木は雪に適応し、弾力性を持ち、雪の重みのために下部が曲がってしまいます。これをネマガリといいます。ネマガリの形を活かして、昔は家の材木やマゾリの素材としました。



春木山

3月、降り積もった雪が固く締まり、日中表面が溶け、夜凍ることで、雪の上を埋まることなく歩くことを「シミワタリ」といいます。

この時期になると雪の上をヤマゾリを滑らせ、木材運搬を行います。これを「春木山」といいます。建築材や燃料材などに使う木材は、木が水分を吸わない秋の彼岸から春の彼岸の間に切るのが良いとされ、山で切った木を、雪で滑らせ運びます。雪国ならではの運搬方法です。



苗場山麓の湧水



山間部に降った雨や雪が、地下水となって平地や崖から湧き出る水のことを湧水といいます。苗場山麓では、段丘面と段丘崖の境目、溶岩流の台地と河岸段丘の段丘面の境目で水が湧き出しているところが多く見られます。湧水の量は気象や人為的作用などによって多少変動します。しかし、その変動は河川や池などの変動よりも小さく、安定した水量を供給している湧水が多いです。

代表的な湧水

代表的なものだけでも約26か所の湧水が確認されていますが、川底や川岸、水田と山の境目など、苗場山麓では多くの場所に存在しているため、全ての湧水を調べることは不可能です。その中でも、苗場山麓を代表する湧水として、栄村の北野天満温泉湧水と津南町の龍ヶ窪の湧水が挙げられます。



北野天満温泉湧水

北野天満温泉掘削時に偶然湧き出した地下水です。

毎分1t以上の水が自噴しています。信州の名水・秘水に選定され、湧水堂で見学できるほか、水汲み場も設置されています。



龍ヶ窪の湧水

苗場山に降った雨水や雪解け水が浸み込み、約40年かけて湧き出しています。

毎分30トン湧き出しており、水温は最も低い場所で6.5度、高くても11度程度です。

硬度17mg/Lの超軟水であり、飲用水としても利用されています。

湧水の生き物たち

8℃から10℃の冷たい湧水が至る所で湧き出している苗場山麓には、低水温やきれいな水質でしか生息できない動植物が多く確認されています。



シナイモツゴ

全国的に分布が限定されている希少な魚類です。長野県では絶滅危惧Ⅰ類に指定され、長野県希少野生動植物保護条例指定種です。苗場山麓では複数の池で生息が確認されており、新潟県・長野県ともに繁殖地として国内でも重要な地域です。栄村切欠堤では「地域の宝」に指定して保全管理が行われています。



ホトケドジョウ

湧水が入るようなきれいで水温が低い小川や用水路などに生息しているドジョウの仲間です。絶滅危惧Ⅱ類に指定されている貴重な生き物の1種です。

梅花藻（バイカモ）

梅に似た花を咲かせ、清く冷たい流水を好む水草です。津南町の町中を流れる船津川では、このバイカモが多く繁茂していました。しかし、近年外来種のコカナダモの侵入や岸辺の環境変化によって減少しています。



アオハダトンボ

水生植物が繁茂し、水質がきれいな小河川に生息しています。新潟県では1975年以降、絶滅したと考えられていましたが、2003年に地元小学生によって津南町で再発見されました。

苗場山の噴火と 中津川が削りだした雄大な渓谷美を歩く 中津川左岸散策道



30 万年の月日をかけて中津川が削った大地の上を歩きます（ドローンで撮影）

苗場山麓ジオパークの見どころの一つである河岸段丘は、信濃川の支流である中津川の右岸に顕著に形成されています。中津川は南北に流れる全長およそ35kmの一級河川で、上流の秋山郷と呼ばれる地域には、深い渓谷の両岸に集落が点在しています。

令和6年7月にオープンした散策道は、足掛け8年がかりで構想、整備されたものになります。昔からあった古道を中心に整備、地権者などの承諾を得て、一部区間は新たに開削しました。全

長27キロに及ぶ区間には、自然環境に配慮し必要最小限の整備にとどめ、津南町の石坂のお堂脇と栄村の矢櫃村跡の間をつなぎます。

現在は、中津川の右岸に国道405号が走り、左岸にも栄村道が整備され、車での移動が主ですが、それ以前はV字



将来的には苗場山や、中津川渓谷を散策できるようルートを計画（絵：中澤英正）



それぞれのトレイルコースの位置関係



雪が降る地域では独特の育った巨木や奇木に出会えます

の深い渓谷では雪崩が多発し危険なため、通行には、沖ノ原から続く台地を使用していました。現在でもその古道の形跡が中津川左岸に残り、町場までつながっています。この古道を整備し、渓谷の景色を楽しみながら歩けるようにしたのが、「中津川左岸散策道」です。



またこの地域は、他にも信越トレイルやスノーカントリートレイルが走っており、一部区間は中津川左岸散策道と共用しています。

苗場山の溶岩が流れ至り、中津川の侵食によって露わになった柱状節理の断崖「石落し」の真上を歩きながら川風を感じ、圧倒されるほど深い落葉広葉樹の森に覆われた渓谷に思わず息をのむことでしょう。

美しいブナ林の中を進むと、思わず名前をつけたくなるようなブナの巨木や奇木にも出会えます。また、ルート上にある峰から下の集落へ下りる古道もあり、温泉宿に宿泊することも可能です。

古道にある石造物には、それぞれ意味があり、ガイドからこの地域の歴史とともに解説を聞くと、先人たちがここに暮らしていた当時にタイムスリップしたか



途中の峠には集落の人が今も大切にしている石造物が見守っています。

のようです。

ルートの標高は350〜1,100mほどですが、区間によっては平坦な場所もあり、トレイルマップを見ながら、歩くのがオススメです。27キロを一度に歩くというよりも、区間によって表情を変える、まさに苗場山麓の自然環境をまるごと味わえる散策道になっています。

対岸に苗場山を望み、各ビューポイントで地形や動植物を観察しながら、苗場山麓を歩いてみませんか。



秋山郷という名前のとおり紅葉シーズンが特におすすめ



ジオラフティング

大地の歴史を間近で体感！



地層が斜めになって重なっている（信濃川・笹沢付近） 地上からは近づけないが、ラフティングボードで間近に見ることができる



ジオラフティングは、多くの感動や発見があるアクティビティと考えられ、新しい可能性を持っています。

- ① 天然のアトラクションで、スリルが楽しめます。
- ② 初心者もチャレンジできます。参加者が力を合わせてゴールを目指すため達成感を味わえます。
- ③ 「ジオ」の要素になる地層や地形といったものを、水平な目線で観察することができます。
- ④ 陸上から普段見ることのできない、川原の植物や動物などの「エコ」の要素も観察することができます。
- ⑤ 栄村小滝の運河跡や巨岩に刻まれた楔跡などから歴史の文化など「カルチャー」の要素を垣間見ることができます。

アクティビティとしての

普及と可能性

■ 観光商品の開発

現在、雪散歩、ジオサイクリング、ジオマラソン等のアクティビティを実施しています。また毎年、駅伝競争大会や各種スキー大会等を実施していますが大局的には、ジオの要素が必ず入っているもので、諸々のイベントに対して、共催といった形でジオパークのアクティビティに包含していくことが望まれ、形から実績へと変容すると考えます。

NPO法人T a pとも連携して、観光商品を構築していく必要もあります。千曲川・信濃川沿いで、ジオラフティングの人気は上がってきていて、複数の事業所のボートを垣間見るようになってきました。

今後は、ジオパークの顔である認定ガイドが、ジオラフティングの醍醐味と魅力を体感し、魅力を伝えられるよう育成していきます。

また、こうした児童生徒の体験は、学習効果が高く、将来を見据えて有効です。安価で参加できる環境づくりを行い、積極的に進めていきたいところです。



神の苗代へ挑む ～天空のお花畑を目指して～



苗場山麓を代表する苗場山に登るという企画を毎年行っています。栄村の株式会社 信州アウトドアプロジェクト（S O U P）に委託しています。

苗場山登山の目的は、

- ① 苗場山麓を代表する苗場山に登山する中で、苗場山をつくる大地の様子（池塘の地形や足元の岩石など）を知ること。
- ② 登山途中に生育している植物（時期に咲く花や樹木の様子）を知ること。
- ③ 協力し合って登ることにより登山の楽しみや醍醐味を味わえること。

■ 苗場山 チャレンジ登山 行程

5 時 30 分	栄村役場
6 時 00 分	津南町役場
7 時 30 分	小赤沢コース 3 合目駐車場
9 時 40 分	坪場着
11 時 40 分	頂上着
12 時 00 分	下山開始
12 時 55 分	坪場着
15 時 30 分	3 合目駐車場 着後解散式

2023年度では、好天の中、3家族の親子7人とスタッフ6人、合わせて13人の参加で実施しました。時間と登山の経過は右記の通りです。3合目から頂上まで、約4時間の登頂でした。児童は、4年生ということで、登山ペースがやや速かったかと思いましたが、思った以上に児童は元気で、むしろ大人の方が、引っ張られるというような登山でした。登山する中で、ミネカエデ、ナナカマドなどの紅葉の話、ブナにつく地衣類やコケ類の話、さらには、高層湿原の眺

め、池塘の成り立ち、尾瀬との違いなど、懇切丁寧な解説とS O U Pのスタッフによる安全な登山に導くきめ細かなサポートが光りました。「雨が降る前に下山しよう。」という合い言葉で臨みました。3合目の駐車場に待機していたバスに乗ったと同時に何と雨がポツリポツリと落ち始め、役場に着いたころには、雨足が強くなってきました。好天に恵まれ、晩秋の高層湿原の草モミジ、樹木の紅葉を満喫できました。



津南駅前温泉（花とほたる、湯のさと雪国）



単純温泉

効能 神経痛、筋肉痛、慢性消化器病

津南駅前温泉（リバーサイド津南）



単純温泉

効能 神経痛、筋肉痛、慢性消化器病

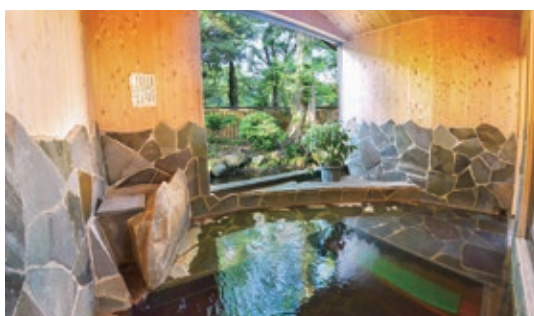
小下里温泉（クアハウス津南）



弱アルカリ性単純温泉

効能 筋肉痛、五十肩、慢性消化器病など

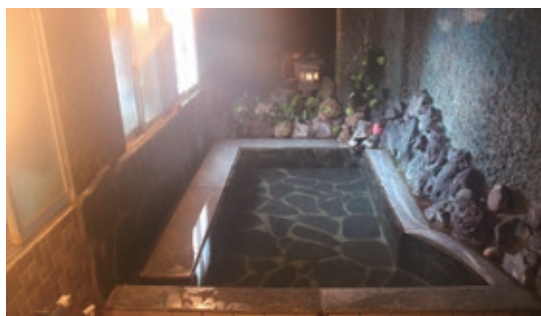
越後田中温泉（しなの荘）



アルカリ性単純温泉

効能 神経痛、筋肉痛、アトピー性皮膚炎など

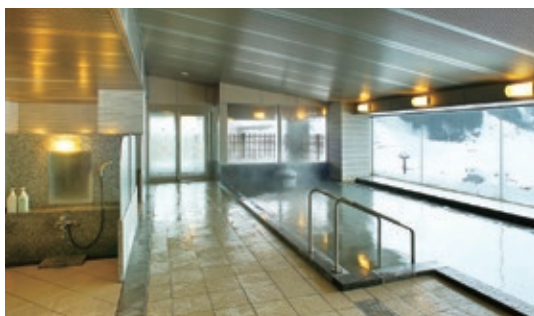
秋成逆巻温泉（川津屋）



ナトリウム・カルシウムー塩化物・硫酸塩泉

効能 皮膚病、水虫、骨膜炎など

ニュー・グリーンピア津南



ナトリウムー塩化物塩泉

効能 関節痛 慢性消化器病 疲労回復など

結束温泉（かたくりの宿）



アルカリ性単純温泉

効能 神経痛、筋肉痛、アトピー性皮膚炎など

結束温泉（萌木の里）



ナトリウム・カルシウムー塩化物・硫酸塩泉

効能 神経痛、胃腸病、アトピー性皮膚炎など

切明温泉（秋山郷雄川閣）



カルシウム・ナトリウム-塩化物・硫酸塩泉、冬期休館

効能 神経痛、疲労回復、慢性消化器病、きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症

切明温泉（河原の湯）



河原に湧いている温泉
自分で穴を掘れば野天風呂となる

屋敷温泉（秀清館）



含硫黄-ナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩泉

効能 末梢神経障害、うつ状態、慢性湿疹など

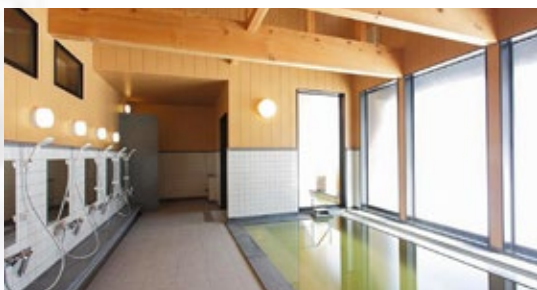
湯ノ沢温泉（のよさの里）



カルシウム・ナトリウム-硫酸塩・塩化物温泉

効能 神経痛、疲労回復、慢性消化器病、きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症

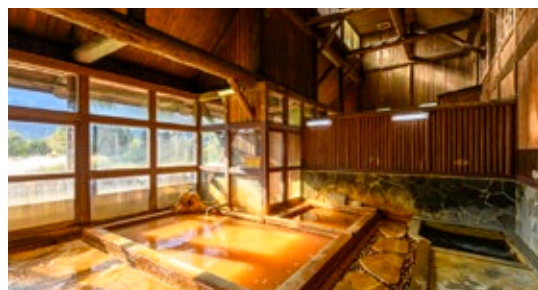
北野天満温泉（学問の湯）



ナトリウム・塩化物温泉

効能 神経痛、疲労回復、慢性消化器病、きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症

小赤沢温泉（楽養館）



含鉄（Ⅱ）・よう素-ナトリウム・カルシウム・塩化物温泉

効能 神経痛、疲労回復、慢性消化器病、きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症

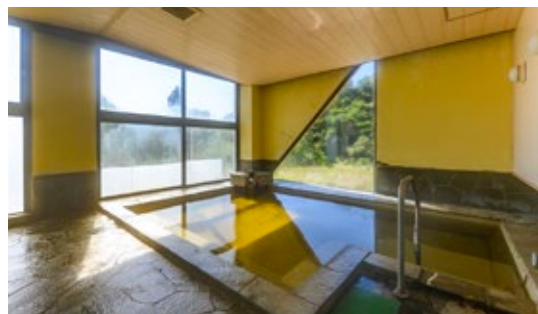
百合居温泉



アルカリ性単純温泉

効能 自律神経不安定症、不眠症、うつ状態

中条温泉（トマトの国）



弱アルカリ性低張性温泉、単純温泉

効能 自律神経不安定症、不眠症、うつ状態

雪と水と大地によって育まれた 苗場山麓の野菜

野菜がおいしくなる理由の一つに寒暖差があるといわれています。気温が低くなると、野菜は凍らないように糖分を貯めます。野菜自身も、呼吸をしているため、夜の気温が低いほうが、栄養分を消費しないで済みます。苗場山麓は山々に積もった雪が解け、大地に染み込み、河岸段丘や大地から少しずつ湧き出すことで、安定した水資源に恵まれた大地です。また豊富な雪で、雪室を作り、野菜を貯蔵するなどまさに「雪は恵み」です。

旬の農産物カレンダー

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
雪下人参											
		山菜									
アスパラガス											
		スイートコーン									
			ユリ								
		トマト									
				米							
				きのこ							

湿潤の雪が降る



雪下人参

夏に種をまき、収穫しない状態で雪の中で越冬させ、春に掘り起こしたものを「雪下ニンジン」と呼びます。

甘くてスイーツのような味わいに！

アスパラガス

露地栽培のアスパラは、春になって、雪解け水で潤ったふかふかの土からグーンと力強く伸びます。根元までやわらかく、太く、しっかりと甘い。

雪下ニンジンに続く、旬の一品です。



スイートコーン

昼と夜の寒暖差によって、とびっきりの甘さになるとうもろこし。おいしすぎて、収穫前にクマやタヌキに荒らされてしまうのが悩みの種。動物たちもおいしさがわかっているんですね。



カサブランカ（ユリ）

苗場山麓は、全国的に有名なユリの産地でもあります。その理由は、球根を1年間育てたあとに、雪室に一度寝かせて越冬させ、2年がかりで丹精込めて育てるから。豊かな土壌で栄養をしっかりと蓄えた球根は、最後のつぼみまで、しっかりと大輪の花を見事に咲かせます。

コシヒカリ

この地域の気候は、1日の気温の寒暖差が激しく、夜間冷え込みます。すると稲の代謝が下がり、日中に得た栄養素を温存することができます。

栄養たっぷりの土壌と、豪雪地ならではのミネラル分を含む雪解け水で育てられた自慢のお米です。



加工用トマト

最適な気候や土壌条件が重なり、国内でも有数の良質なトマトが出荷されています。手摘みにこだわり、完熟を見極めたトマトは雑味なく、すっきりさわやかな味は農家のトマトにかける情熱そのものです。

きのこ

山で見つけると舞い上がるほどおいしいことが名前の由来の「舞茸」や、なめこなど、地元の広葉樹のオガ粉を使用し、より天然に近い栽培をすることで色も濃く、香り高く濃厚な旨味のあるきのこが育ちます。



山菜

雪国ならではの厳しい冬を耐え忍び、雪解けとともに芽吹きます。透明感や清潔感、まろやかな旨味が特徴です。春に採った山菜を瓶詰や乾燥させるなどして保存食としても食べられています。

越ノ国ニ光カガヤク米「風と雪と水と土と」
魚沼津南産コシヒカリ



取扱店舗 津南観光物産館

生まれたのが、「苗場山麓ジオパーク認定商品 大地のたからもの」です。食べ物だけではなく、加工品や布製品など、種類豊富な商品をとおして、苗場山麓地域の魅力をご堪能ください。



苗場山麓を巡りながら、さらなる魅力を感じていただきたい。そんな想いから

令和6年12月現在

大地のたからもの
苗場山麓ジオパーク認定商品

食べて、飲んで、お土産に！

段丘の華（精米）



取扱店舗 有限会社 大阪屋商店

小さな山里 栃餅



取扱店舗 農産物直売所 四季の杜

苗場そば



取扱店舗 津南観光物産館

山麓サブレ



取扱店舗 有限会社 松屋

柱状節理



取扱店舗 有限会社 好月

おひさまケチャップ



取扱店舗 道の駅 信越さかえ

ジオ+ SDGs シャツ



取扱店舗 志賀スポーツ

信州秋山郷クロモジ和精油



取扱店舗 道の駅 信越さかえ

信州秋山郷クロモジ芳香蒸留水「郷の雫」



取扱店舗 道の駅 信越さかえ

つなん（日本酒）



取扱店舗 津南醸造 株式会社

清酒 - 霧の塔 -



取扱店舗 津南醸造 株式会社

雪美人（日本酒）



取扱店舗 津南醸造 株式会社

あんぼ



取扱店舗 農産物直売所 四季の杜

豪雪物語 どぶろく



取扱店舗 農産物直売所 四季の杜

純米吟醸「苗場山」

- ジオパークラベル春夏秋冬 -



取扱店舗 苗場酒造 株式会社

いろいろきのこのなめたけ



取扱店舗 しなの荘（宿泊者に提供）

かてぜ



取扱店舗 しなの荘（宿泊者に提供）

マゲマソースのつなんジオカツカレー



取扱店舗 ニュー・グリーンピア津南

段丘天ぷら



取扱店舗 株式会社 綿屋旅館（宿泊者に提供）

認定商品 随時募集中

苗場山麓の地質、気候、生態系、人々との関わりを表現する地域産品を苗場山麓ジオパーク特産商品「大地のたからもの」として認定し、ジオパークの振興と商品の販売促進を目指しています。現在は13事業者による20の商品が認定されています。商品の認定は随時募集しています。

お店のポップなどに活用できるのぼり旗や認定証を贈呈。事務局にてパンフレットを作成するなど積極的に広報します。詳しくはお問い合わせください。

■お問い合わせ先

苗場山麓ジオパーク振興協議会
商品開発部会

（事務局 津南町役場観光地域づくり課）
☎ 025-765-5454

これからの苗場山麓ジオパーク

苗場山麓ジオパークは苗場山麓に位置する新潟県津南町と長野県栄村が手と手を取り合い2014年12月22日に日本ジオパークの認定をいただきました。以後、4年に一度の再認定審査を受けながら、この度、10周年を迎えることができました。ひとえに、先達の皆様のご尽力、関係者の皆様の多大なるご指導、ご支援があつての賜物であり、心から深く感謝申し上げます。

日本ジオパーク認定を目指した際の計画から振り返ると、ジオサイトの整備、広報・普及活動の実施、中津川左岸散策道の整備、ガイド養成、拠点の再整備、研究活動を掲げ、この目標に向かって進めてまいりました。

現在、ジオ、エコ、カルチャーサイトは37サイト。ビューポイント8箇所、文化財は18箇所、合わせて63箇所となりました。また、中津川左岸散策道の整備も進み、認定ジオガイドは100名を超えることができました。地域の皆さまへの周知を重ね、地元小中学校と連携しジオパークを活用した総合学習やジオパーク学習への取り組み、学術研究奨励事業助成金を活用した研究調査はジオパーク研究集録にレポートを掲載することで成果を蓄積しております。その他にも、数多くの取り組みを実施してまいりました。

日本ジオパークの認定をいただき10年が経過し、苗場山麓ジオパークが進む次の10年は、基本計画、アクションプランに基づき新潟県津南町と長野県栄村があらためて地域資源を認識し保全と活用を考え進めていく期間となるのではないのでしょうか。ジオパーク（地域の宝物）を保全し活用していくにあたり要となる存在が2つあります。

1つは、これからの地域を担う子どもたちです。ジオパーク学習や講座で子どもたちに出会おうと「これから何が始まるんだろう?」「ど



んな話をしてくれるんだろう？」ワクワクした表情を見せてくれます。それぞれの学校でジオパークの活動や学習をしています。自分たちの地域のことを調べ、ジオパークの魅力を自慢したり紹介したり、時には他の地域のジオパークのことも調べ、質問をします。他のジオパークのことを知ると、自分たちのジオパークとは違うところ、自分の地域にしかない地域の宝物を見つけ、気づいてくれます。

ジオパーク学習の発表は、その地域の宝物を他の人に伝えることの始まりとなります。これからの地域を担う子どもたちが地域の宝に気づき、郷土に誇りと愛着を持ち、伝えていってくれたなら、苗場山麓地域がもつともっと元気になるはずです。

そしてもう一つの要が、ジオパークの魅力を多くの人たちに分かりやすく伝えるジオガイドの皆さんです。ジオパークの要素を取り入れたここできかない発信をするため、日々、地域の魅力発見、伝える力の研鑽に取り組み、ガイドそれぞれ得意な領域や持ち味を活かし、生きがいを持って取り組んでいます。このような活動を持続的に進めていくため、ガイドの養成を続け、活躍の場を提供していくことが必要です。

ここに至るまでの先達の皆様の取り組みに感謝し、先達の言葉もお借りしながら、ジオ・エコ・カルチャーに始まるジオパーク（地域の宝物）の魅力を見つめなおし、人の想いと地域をつないできた10年、これから次の10年に向けて持続的な活動となるように取り組んでまいります。

今後とも、苗場山麓ジオパークの取り組みにご指導、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

苗場山麓ジオパーク振興協議会

ジオパーク推進室長 五十嵐 誠



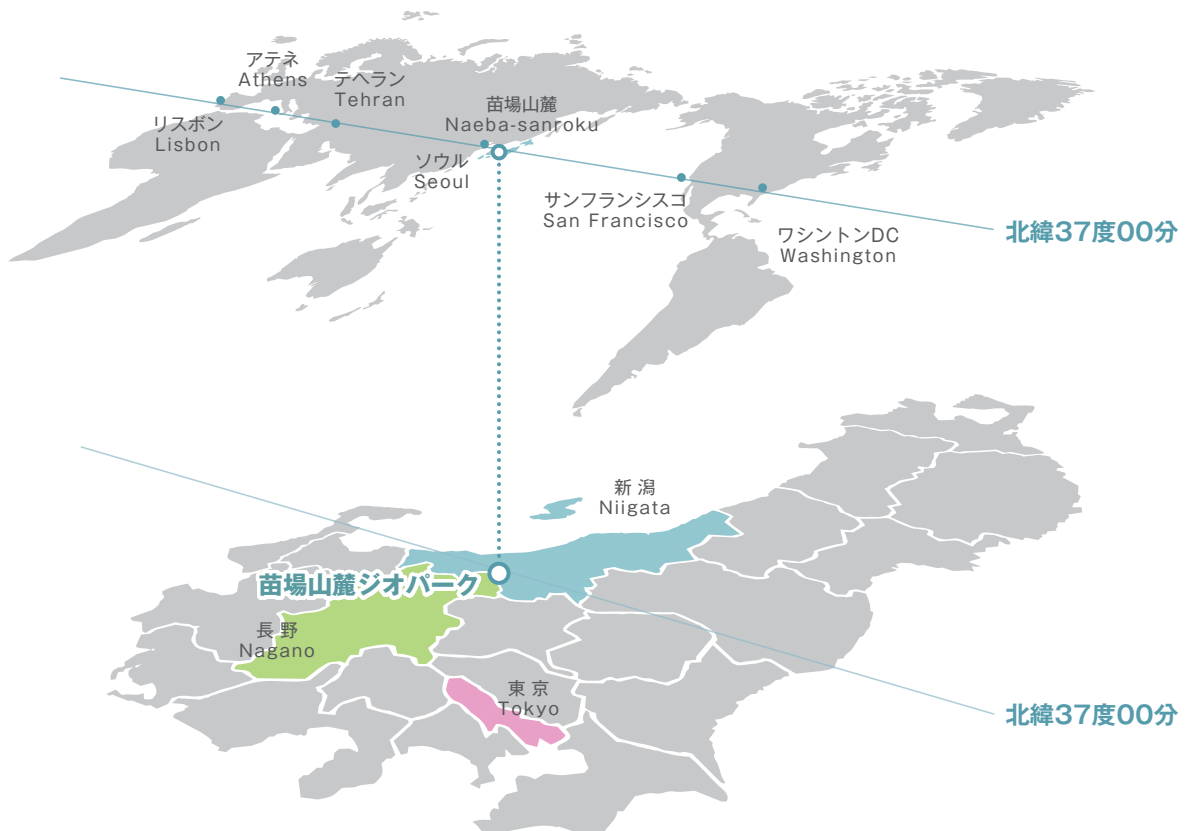
苗場山麓ジオパークのロゴデザイン



苗場山、河岸段丘、縄文、雪のテーマが盛り込まれ、シンプルで独自性が高いデザインであることを念頭に振興協議会委員全員から採点してもらい、決定しました。

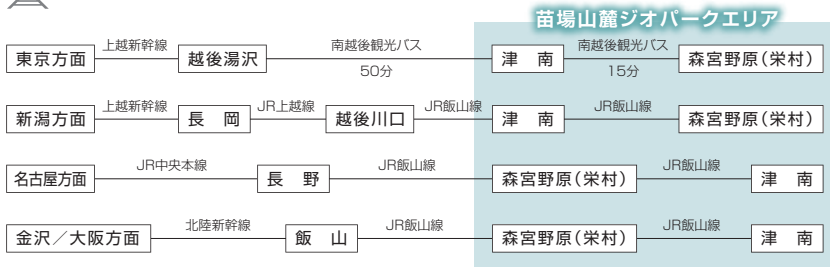
公募により 259 点のデザインが集まり、選考の結果、群馬県の小池友基氏のデザインに決定しました。

位置図

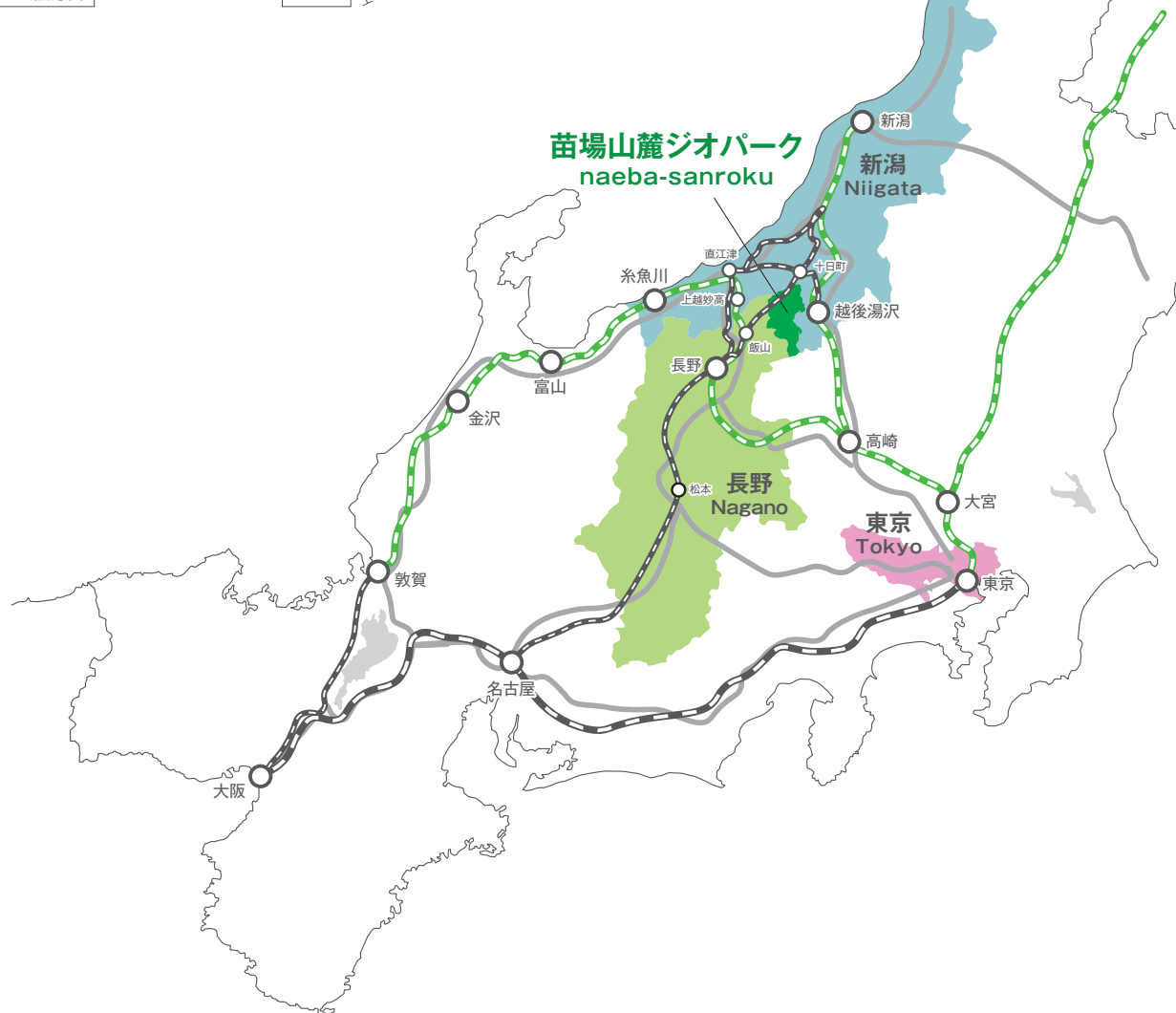
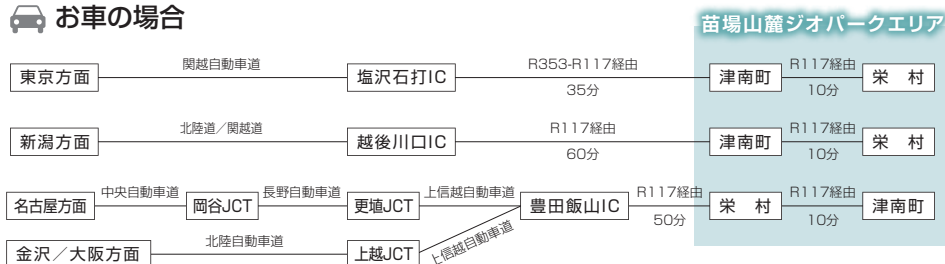


アクセス

公共交通(列車・バス)をご利用の場合



お車の場合



【表紙の写真】

苗場山の初雪と秋山郷の紅葉
 雄大な苗場山とその懷に抱かれる小赤沢集落。
 初雪と紅葉のコラボレーションが美しい。

10周年記念誌
「苗場山麓ジオパーク10年の軌跡」

発行日
2025年2月26日

編集・発行
苗場山麓ジオパーク振興協議会
〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡乙835番地
電話 025-765-1600 FAX 025-765-5511